

秋の褒章 おめでとうございます

さまざまな分野で活躍し、社会貢献した人を表彰する「秋の褒章」が、11月3日、内閣府から発表され、上谷春さん（久住）が黄綬褒章を受章しました。

【黄綬褒章】（業務精励（農林業））

うえたに はじめ
上谷 春 さん（久住）



上谷さんは、40年以上にわたって椎茸栽培を続けられ、寒冷な山間部での中葉中肉種の高度な椎茸栽培技術と最適な栽培環境を確立。令和元年には、全農乾椎茸品評会の中葉中肉部門で最高賞の農林水産大臣賞を受賞。質の高い椎茸の生産で、中山間地域の自然を生かした椎茸の特産品化、産地づくりに大いに寄与されました。

また、椎茸産業だけでなく、地域農業の貴重な担い手としてリーダーシップを発揮し、農地保全・環境保全にも尽くされるなど、そうした長年の功績が認められ、今回の受章となりました。



鶉の池湖畔にイロハモミジなどを植樹

「ミヨシ産業鶉の池共生の森」で森林保全活動を実施 みどり豊かなまちづくり

11月11日、下黒坂地内の「ミヨシ産業鶉の池共生の森」で、株式会社ミヨシ産業（米子市）による、とっとり共生の森事業が行われました。

この事業は、令和5年に締結した「とっとり共生の森」森林保全・管理協定によるもので、県と町が企業などの森林保全活動を支援。鶉の池湖畔約1・83畝の森林を舞台に、植樹や下刈りなどの森林整備を行います。

昨年に引き続き、今回が2回目の開催で、鳥取日野森林組合の指導のもとミヨシ産業の社員約20人が参加し、イロハモミジやコナラの植樹を行いました。



参加者同士輪になってトークセッション

11月17日、町文化センターで、日野高校魅力向上推進協議会と日野郡ふるさと教育推進協議会による協働事業として、協働シンポジウム「持続可能な学びを100年先に伝承する」が開催されました。

第一部では、つわの学びみらい（津和野町）による事例発表、第二部では、山村開発センターで、第一部の登壇者と参加者のトークセッションが行われました。地域の課題や解決策など、お互いに意見を出し合いながら交流を深めました。

先進地から、これからの教育について学ぶ
日野高校魅力向上推進協議会・日野郡ふるさと教育推進協議会協働シンポジウム



第 55 回日野町表彰式 ～地域貢献をたたえる～

町の発展に大きく貢献された皆さんを表彰する、第 55 回日野町表彰式が、11 月 22 日、日野町役場で行われました。

今回は、地域貢献功勞で社会福祉法人祥和会セルプひのさんが表彰されました。おめでとうございます。



《地域貢献功勞》

社会福祉法人祥和会 セルプひの

平成 15 年 4 月より、わかとり作業所日野分場として開設後、平成 17 年 4 月にはセルプひのとして新しくスタートされて以来、今日まで多年にわたり障がいのある方の生活支援・就労支援に尽力され、事業所における販売活動等を通し、町の PR に貢献されました。

また、「地域に根差した事業所」として、積極的に地域の行事・イベント等に参加され、障がいのある方に対する地域住民の理解促進にも尽力されています。

新鮮野菜や海の幸を求めて

第 17 回ふれあい JA まつり with 海鮮・山鮮まげなもん祭

11 月 17 日、金持テラスひので、「第 17 回ふれあい JA まつり with 海鮮・山鮮まげなもん祭」（JA 鳥取西部日野支所、町主催）が開かれました。

毎年恒例となっているふれあい JA まつりと海鮮・山鮮まげなもん祭が、今回初の共同開催。町内外から約 1,100 人を超える人が来場しました。

会場では、カニ汁が無料で振る舞われたり、白ねぎのつめ放題が行われるなど、にぎわいを見せていました。



▲開場直後から多くの人でにぎわう

◀鈴原^{もち}糯のきねつき体験



ワークショップで楽しくリースづくり

新しい地域の拠り所を目指して

ウィークエンドハウスきない家^やオープン

11 月 10 日、黒坂のまちなかに「ウィークエンドハウスきない家」がオープンしました。

空き家を活用し、「来なさいよ」という日野弁にかかった名前のきない家。毎週金曜から日曜の週末のみ開店し、整体やものづくりなどが楽しめます。日曜日にはワークショップが開かれ、自分の得意なことや好きなことを人と共有し、楽しんで交流できる場所です。

世代を超えた交流のできる新しい地域の拠り所になってくれることを願います。